

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号			
法人名	有限会社 エスエス住建		
事業所名	グループホーム くぬぎの森 A棟 こもれび		
所在地	茨城県鹿嶋市和 825-2		
自己評価作成日	2022年4月2日	評価結果市町村受理日	2022年8月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhou_detail_022_kani=true&JirgyosyoCd=0872200407-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町4637-2
訪問調査日	2022年5月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所には、敷地内に2ユニット、デイサービスも併設しているので利用者同士の交流が持てること、近くにグループホームがもう1ユニットありお互い交流をしいろいろな情報交換が出来ている。また、道路を挟んだ向かい側に、提携している有床診療所の協力があることで利用者一人一人に合わせたターミナルケアを行うことができています。さらに、敷地内外に畑があり利用者と一緒に野菜の栽培や収穫を行うことで四季を感じて頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

主要道路に面しているが、広い敷地にあり、静かで落ち着いたホームである。大きな木陰は涼しげで、畑はきれいに耕され、中庭には季節の花が咲いている。コロナ禍でも、感染対策を講じて様々なボランティアを受け入れ、訪問調査日も外回りを管理してくれるボランティアが黙々と作業をしていた。オーナーが育てている季節の野菜を使った食事は利用者の楽しみになっている。勤続年数の長い職員が多く、理念を理解し、笑顔を大切に利用者の支援を行っている。常勤の看護師や協力医との連携がとれており、住み慣れたホームで最期まで支援できることも利用者、家族の安心につながっている。***新型コロナウイルス感染予防の観点から、訪問調査は通常より時間を短縮し、簡潔に実施。**

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員皆が終の棲家となるようにとの思いで理念を考え、日々目に入る場所に掲示しそれを念頭に置きながらケアを行っている。	開設時に職員と一緒に考えた理念を目に入る場所に掲示しており、全職員が理念を把握している。職員は玄関で理念を確認し、気持ちを切り替えて業務にあたっている。利用者の終の棲家となれるよう、笑顔で過ごせるようにと理念に沿った支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	庭先のフェンス越しや畑で近隣の方々と交流をもち、認知症の理解や協力をお願いしている。傾聴や外回りのボランティアの協力も得ている。また、災害時における協力体制もお願いしている。	コロナ禍でイベントは自粛されているが、傾聴ボランティアが活動を再開したことにより、外回りを管理してくれるボランティアも活動を再開。猫も姿を見せるようになり、利用者が喜んでいる。桜がきれいな近所のお宅で花見やお茶飲みを楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市の傾聴ボランティア養成講座や市内中学生の職場体験等に協力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今現在の取り組みや行事の報告を行うことでアドバイスを頂いている。また、地域における情報交換の場として活用している。	緊急事態宣言中でない時期は運営推進会議を開催し、民生委員、近隣の方、家族、市職員、包括職員が出席している。利用者の状況や行事の報告をし、他のホームの状況や桜の開花情報など様々な情報交換をしている。議事録を全家族に送付し、周知している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	傾聴ボランティア養成講座の受け入れや推進会議を通して、意見交換を行いながら協力している。	市職員が運営推進会議に出席するほか、市役所に出向くこともあり、福祉関係の委員や判定会議の委員の委嘱を受けるなど、担当課とは良好な関係が築けている。生活保護受給者がおり、担当課と連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	講習会に参加し、不参加者への報告理解の徹底を行っている。また、身体拘束対策委員会を設置し、3ヶ月に1回会を開催している。	身体拘束適正化委員会を3ヶ月に1回開催し、テーマ毎の学習や、チェックリストを用いて職員の意識確認をしている。県の講習を受講した職員による伝達講習等も行っている。バルーン装着をしている利用者の支援について、安全に支援できるように話し合っている。病院でつなぎ服を着ていた利用者について検討しケアしたところ、普通の洋服で落ち着いて過ごすことができた事例があった。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	講習会に参加し、全スタッフが高齢者を敬いながら、介助行為、言葉遣いに注意を払い日々のケアに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて利用者、家族に対して管理者が情報提供やアドバイスを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間を設け丁寧に説明させて頂いており、後日不明な点がでた際にはいつでも相談下さいとお伝えしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族とは面会時や電話、お便り等でコミュニケーションを図っており、気軽に話して頂けるように雰囲気づくりをしている。	ユニット毎に写真入りの通信を作成して家族に近況報告をしている。窓越しでの面会を支援している他、オンライン面会も声をかけたが希望はない。洋服の入替等は、コロナ禍である為、家族に連絡し、職員が行っている。面会や支払い時に家族の要望等を聞いているが特にない。利用者からは食べ物に関する要望が多い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月代表者、管理者、リーダーによる会議が行われている。リーダーは各部署ごとにスタッフの意見を取りまとめ提案、相談を行っている。	ユニット毎に月1回カンファレンスを行い、利用者への対応方法などケアの統一を図っている。新型コロナウイルス感染に備え、マスクやガウンの用意や1戸建ての住宅での隔離を検討するなどのBCPを作成した。職員からの移動用リフト導入の意見など費用がかかることでも取り入れられ、働きやすい職場であるとの話が聞かれた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、働きやすい環境を整え実践している。勤務形態や勤務状況に応じて、人員配置や補充のサポートを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、コロナ禍においてもリモート研修等可能な限り参加できる環境を整えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	茨城県地域密着型介護サービス協議会の会員になっている。研修会等を通して他事業所との交流を持っている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入する以前に必ずご本人と面会し、直接お話しさせて頂き不安が少しでも軽減するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居する際は、ご家族に対して今までのご苦勞を受け止め話し合う時間を十分設け、現在の状況を把握できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族を支えるにはどのようなサービスを必要としているのか、十分な情報を提供し選択できるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「他人以上家族未満」という考えのもと、喜怒哀樂を共有できる関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍でご家族の行事への参加は難しいが、ご家族からのプレゼントにはお礼の電話をご本人と一緒にしたり、年賀状のやり取り等ご本人とご家族の関わりを大切にしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で今まで通りの面会は難しくなりましたが、窓越しやテラスでの可能な限りの面会の機会を設けるようにしている。	誕生日や母の日などのプレゼントが届いた時には、お礼の電話をかけるなどの支援を行っている。2月に1回の訪問理美容を利用している。新聞を購読し、毎日読んでいる方がいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	心身の状態が重度で、皆でレクリエーションを行うのは難しいが、スタッフが積極的に間に入り関わり合いを持てるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族からの要望に応じて、電話や面会を行っている。葬儀等に参列させていただくこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日のケアの中からの気づきやご家族からの情報を参考にしながら、声にならないご本人の思いに沿うよう努めている。	コミュニケーションが取れにくい利用者には、バリエーション療法を取り入れて身振りや身体力の入り具合などから思いをくみ取るようにしている。利用者同士が話すことを支援し、大きな声などトラブルになりそうなどときには早めに間に入って、大事に至らぬよう配慮している。「家に帰りたい」の声には優しく寄り添い、混乱が静まるよう支援する。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス開始時にご本人やご家族からよくお話を伺うと共に、センター方式シートへの記入をお願いして情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子やご本人との会話を通して現状を把握するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人ご家族の要望、チーム内それぞれの意見や情報をとりいれ介護計画を作成し、共有実践している。	担当者が中心となってアセスメントを行い、計画作成者がプランを作成。毎月のカンファレンスで利用者の状況を報告し合う。利用者それぞれの役割もプランニングされている。モニタリングシートを使ってモニタリングし、次の計画に繋げている。ケアプランを見ながら日々の記録をつけ、利用者の言葉や行動が細かく記載されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の経過記録に行動や様子、特に発した言葉を逃さず記録し、介護計画に反映している。また、計画通りに実践できたかを記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のデイサービス利用者が心身状態の変化に伴いホームに入居したり、ご家族の要望で居宅サービスから情報やアドバイスをもらい支援に活かしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣から庭の手入れや傾聴してくださるボランティアの協力を得ている。また、災害時の協力も得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携診療所からの往診が主になっているが、ご本人ご家族の要望に応じて、今までの関係を断つことなく送迎受診の支援を行っている。	協力医から月1回の往診を受け、変化があった場合は家族に連絡し、記録している。協力医は、往診以外にも頻回に立ち寄り、指示を仰ぐことができる。歯科、皮膚科等の受診には職員が付き添い、家族と待ち合わせることもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が2名いることで、主治医との連携や支持受けがスムーズに行われている。看取りの取り組みも、他スタッフにとって安心できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、サマリーや内服情報等の情報提供をおこなっている。病院相談員と連携し退院に向けて事前相談、面会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、常勤の看護師がいることで24時間病院との連携がスムーズなこと、ターミナル期まで過ごすことができる施設であることとを説明している。また、施設内で出来ること出来ないことを書面にて確認していただいている。	重度化した時に医師から家族に説明し、家族と話し合っ方針を決定すると契約時に伝え、同意を得ている。喀痰吸引は看護師の他、介護職員も2名研修を受けており対応できる。看取り後は、家族への支援や振り返りを行い、職員の身体への負担や不安の軽減を図っている。職員は、看護師の配置や協力医への連絡体制が整っており、医療面での不安はない、最期まで看取りたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置してあり使い方や全スタッフ救命講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の、通報訓練、避難訓練を実施している。車椅子利用者の夜間を想定した訓練も行っている。水、食料品の備蓄、発電機も設置している。近隣との協力支援も協定を結んでいる。	車いす利用の方が多くなり、夜間想定でベッド上から避難する訓練を行って、移乗や布団で移動することの難しさを改めて認識した。近くの特養と防災契約を締結し、近隣の方の協力も得られるが、地域の方々の具体的な行動についてのマニュアルは作成していない。居室前やトイレ等に髪飾りのシュシュを用意し、避難確認が済んだ箇所はシュシュを外していくことにしている。発電機を準備し、定期的に点検をしている。ホームはオール電化、デイサービスはガス使用と熱源を分け、水道と井戸水を併用するなどのリスク回避策をとっている。東日本大震災では近所の方や職員に水を分けることができた。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	敬意を払った言葉遣い、行為を行っている。また、利用者それぞれに合った言葉かけや対応を行っている。入浴時やトイレ介助時は、プライバシーには十分な配慮をしている。	耳元で話しかけたり、トイレや浴室のドアを閉めるなど、プライバシー保護に努めている。家族通信などへの写真掲載については、家族の同意を書面で得ている。面会簿も個票としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲み物やケーキ、お饅頭等おやつを自分で選んでいただいたり、スタッフと一緒に洋服を季節に合わせてどれを着るか決めてもらったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな1日の流れはあるものの、一人一人状況に応じて臨機応変に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	コロナ禍でおしゃれをして外出する機会がなくなってしまったが、2ヶ月に1回美容師の方に来て頂いて散髪を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	畑でできた野菜を収穫したり、下ごしらえを手伝って頂き季節を感じてもらっている。おせち料理やひな祭り等、季節の行事食の提供やお誕生会では、ご本人の要望で好きなものをお出ししている。	旬の野菜と冷蔵庫内の材料を見ながら献立を考えている。主菜は肉・魚が半々で、週2回、近くのスーパーに配達を依頼している。野菜の下ごしらえなどはできる方が行っている。ホットケーキやふかし芋など、おやつ作りを楽しむこともある。誕生日には中華の出前を取ったり、年越しそばは近所の蕎麦屋に頼んでいる。コロナ禍である為、職員は食事介助や見守りを行い、一緒に食事はしていない。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録し一日分の摂取量を確認している。食形態を考慮し量の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご自分で出来る方は声掛け見守り、出来ない方は介助にて口腔ケアを実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンよりトイレ誘導を行っているが、それ以外でも様子によってトイレに座って頂いている。	排泄パターンを把握してトイレ誘導や声かけをし、車いすの方でも二人で対応するなど、日中はトイレでの排泄をめざしている。夜間のポータブル使用はセンサーを利用し、安心して使えるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日の水分量が確保できているかチェックし、食事内容の工夫、運動等で自然排便を促している。看護師と相談して、下剤も内服している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	安全面から日中の入浴になってしまうが、一人一人の希望にあわせて入浴順やお湯の温度にし気持ちよく入って頂けるようにしている。また、季節のお風呂菖蒲湯、ゆず湯等を楽しんで頂いている。	週3回の入浴を基本とし、午前中から入浴している。4点での移動用リフトを使用し、安心して入浴することができる。脱衣所にはエアコンが設置されているが、ストーブも併用し、温度差への配慮を徹底している。足拭きマットやイス用のタオルは個人のタオルを使用し、感染予防を図っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間の違いや居室の明るさ等一人一人に合わせて気持ちよく眠れるよう調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬のファイルを準備し、誰に何の薬が処方されているのかだれでも確認できるようになっている。処方変更時には看護師が申し送りノートに記入、スタッフが各自確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯や掃除等生活歴に合わせて、力を発揮できる役割をして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍でここ2年程外出が難しくなっているが、近所のお庭で桜の花見をさせて頂いたり、ベランダでお茶会を開いたり工夫している。	コロナ禍ではあるが、畑でサツマイモを収穫したり、花見ドライブに出かけたり、近くを散歩するなど、感染予防を図って外出を支援している。2年ぶりに菊祭りに行った。テラスには自由に出入り、花を眺めたり、別ユニットを訪ねたり、青空の下でお茶飲みや食事をすることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在現金をお持ちの方はいらっしゃらない。必要なものは、ご家族やスタッフが代理で購入しご本人に確認して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お礼の電話をしたりご本人の希望により、電話を取り次いだりしている。年賀状やお便り、写真をお送りしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を生けたり、一緒に制作した季節の飾りを掲示している。台所から食事の支度の音やにおいがして食事の時間が近づいていることが分かるようになっている。	利用者と一緒に作った季節の作品を壁にかけ、訪問調査日にはアヤマと鯉のぼりが飾られていた。廊下にイベントを楽しむ利用者の笑顔の写真が掲示されていた。日中は洗濯物をたたんだり、新聞を読んだり、塗り絵・ちぎり絵・テレビを見たり、部屋で過ごすなど、思い思いに過ごすことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やテラス、玄関にソファやベンチを配置し、自由に好きな場所で過ごして頂けるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、自宅でそれまで使用していた物を持参頂き、部屋に入れば自分の部屋だとわかり安心できるような工夫をしている。	居室ドアには、表札の他にも目印をつけ、自身の部屋をわかりやすくしている。居室には洗面台と物入れが設置されている。タンスや収納ボックス、仏壇などが置かれ、本人や家族の写真、作品を飾るなど、個人好みの部屋造りがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレを安全に利用できるよう、手すりや介助バーを設置している。また、棟内を車椅子で自走できるよう安全に配慮している。		

(別紙4(2))

事業所名 : グループホーム くぬぎの森

目標達成計画

作成年月日 : 2022年8月5日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	・災害時に置いて近隣の方との協力協定を結んではいたが、担っていただく役割が決まっていなかった。	近隣の方と災害時における役割分担を決める。	避難訓練を行なう時に、近隣の方へ参加をお願いし一緒に訓練を行っていただく。その後、できること、できないことを検討し役割をお願いする。	ヶ月
2	35	・歩行が難しい利用者の避難。	利用者の安全避難。	細かな行動手順を決めて掲示する。室内にある物(布団とう)を利用して、安全に移動できるよう毎回訓練時に行なう。	ヶ月
3	8	・馴染みの人や場所の関係継続。	オンライン面会を利用して、家族や知人との関係を途切れないようにする。	コロナ禍で面会が難しく、オンライン面会を準備はしてあるが利用が進んでいない。毎月お便りを発行して施設内の様子を発信しているので、それに毎回QRコードを掲載し、オンライン面会を行っていることを発信続ける。	ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。